



土木史フォーラム

Newsletter of Committee on Historical Studies in Civil Engineering
Japan Society of Civil Engineers

No.36 2008.12.

目次

フォーラム	産業遺産の価値から考える土木史の役割	安島 博幸	1
地域のニュース	近世干拓の遺産 掛樋と南蛮樋	三木 秋男	3
土木史ニュース	平成 20 年度選奨土木遺産	選奨土木遺産選考委員会	5
文化財ニュース	文化財となった土木関連建造物等一覧	北河 大次郎・阿部 貴弘	6
学会の動き	第 28 回土木史研究発表会報告	伊納 浩	7
	土木学会全国大会 研究討論会報告	阿部 貴弘	7
	「第 29 回土木史研究発表会」の開催と講演用論文および討議欄の募集	土木史研究委員会	8
	平成 20 年度 土木史研究委員会及び土木史フォーラム小委員会委員名簿		8

フォーラム

「産業遺産の価値から考える土木史の役割」

立教大学観光学部 教授 安島 博幸

はじめに

観光の分野では、オルタナティブ・ツーリズムあるいは、新しい観光、ニューツーリズムと言われる従来型の観光ではない新しい旅のスタイルが着実に増えてきている。特に顕著なのは、エコミュージアム、エコツーリズム、グリーンツーリズムにおける様々な試み、そして産業遺産観光などである。

これらに共通するのは、いずれもこれまで観光地であったところではなく、観光地の周縁部や観光とは無縁のところから出てきたものも多い。強くて大きい既存観光地が勝ち続けるのではなく、それまで無名の脇役が突如として世の中の登場し、トップスターになるようなものさえある。具体的に地名を挙げれば、ブナの自然林を核とする「白神山地」、銀鉾山の産業遺産「石見銀山」、そして絹糸の製糸工場であった「富岡製糸場」である。以上は、すべて世界遺産クラスである（富岡は暫定リストに登録）。

しかし、これらの地域は、そこに住んでいた人でさえ、その価値を認識していなかった場所も多いのである。すなわち、どこかで遺産的価値に関して大きな転換が起きたのである。

ここでは、観光的にも価値が高い産業遺産の評価がどこから、生じてきたのかを考えることによって、土木遺産の価値について考える手がかりにしたい。

(1)産業遺産の意義と価値

まず、大事なことは、モノの価値は時代によって変わるということである。モノの見方によって、価値に変化が生じるということである。フランスの哲学者ミシェル・フーコーは、「まなざし」という言葉を使っている。「まなざし」を簡単に定義することは、難しいが要するに、個人の経験や感性を超えて、社会的に組織されているモノを見る時に、見方を方向付ける規準ないしは枠組みと言えば良いだろうか。それは複雑な現実を反映して形成されるので、仕組みを解明することは難しいが、明らかに「モノの見方」「まなざし」が変化したことは間違いない。

文化庁では、1990 年から「近代化遺産総合調査」を開始しているが、まだ歴史は始まったばかりである。産業遺産の価値については、どのように考えられているのだろうか。説明を要約すると、次のようなことになるだろう。

「かつてわが国の近代化や高度成長を支えてきた製造設備や建築、技術など近代化や高度成長を証明する貴重な設備や建物、技術は、一旦失われてしまえば、その復元は極めて難しくなる。新しい動きとして都市部の歴史的な中心エリアの再生の核として、これまで気づけなかった地域固有の資源としての地元の新たな価値認識も高まっている。」ただ、これは、表面的な説明であり、どのような価値に対する認識が高まっているおり、どうすれば価値に気づかせる

ことができるのかについては触れられていない。以下に、世界遺産の暫定リストに載った富岡製糸場を例にとって、「世界遺産」的価値について考えてみたい。

(2)産業遺産の価値と“まなざし”

ここで富岡製糸場を日本史事典で引いてみる。そこには、次のような記述がある。

「官営模範機械製糸工場。1870年（明治3）群馬県富岡に設置を決定、'72年に操業を開始。フランス人技師ポール・ブリューナーを雇い入れ、300釜、女工210余人、女工の技術伝習を中心とした。'93年三井に払い下げ、さらに1902原合名会社へ譲渡、'38年（昭和13）片倉製糸に譲渡されるため、いったん株式会社富岡製糸所となり、'39年正式に合併された。」

淡々と事実を記すがこれでは、なぜ世界遺産に登録されるほどの価値があるのか、分らない。中学・高校で学習する日本史の勉強では、関心が高まらないことが良く分かる。

次いで、もう少し富岡製糸場の意義や価値について言及してみると、「開国後の日本にとって、絹糸は重要な輸出品であったが、繭から生糸をつくる工程は前近代的で、欧州産よりも品質の面で劣っていた。このため、殖産興業推進のために、明治政府は、お雇い外国人技師ポール・ブリューナーの指導で養蚕業の盛んな富岡に、世界でも有数の規模の器械製糸工場を初めて設置した。全国から集められた工女たちは、日本全国の製糸工場に繰糸の方法を伝授する役割も果たし、短時間に技術が全国に伝播されて生産が急拡大した。この絹糸と絹織物の輸出によって、近代化を進め、明治維新から、30年そこそこで日露戦争に勝利するなど富国強兵の両面で欧米と肩を並べるほどになった。その歴史が始まったのが富岡製糸場なのである」

このように書くと、富岡製糸場の価値について、かなり分かったような気になる。しかし、まだこれでは、人類の歴史を作った世界遺産という意味では、不十分だと感じる。

どのように書けば世界遺産の価値に近づけるのだろうか。上の説明と重なる部分が多いが、続けると、「明治政府は、殖産興業推進のために、フランス人技師の指導で養蚕業の盛んな富岡に、世界でも有数の規模の器械製糸工場を初めて設置した。工女たちは、日本全国の製糸工場に技術を伝授し、短時間に生産が急拡大した。この絹糸と絹織物の輸出によって、近代化が急速に進み、強国ロシアに日露戦争に勝利するなど富国強兵の両面で欧米と肩を並べた。

欧州諸国がルネッサンス以降、約300年をかけて実現した近代化を日本は、たったの30年で完成したのである。この事実は人類の歴史に記憶されるべき奇跡であると言える。その原動力となったのは、絹糸と絹織物産業であり、その象徴が富岡製糸場なのである。」これで、だいぶ世界遺産に近くなったのではないだろうか。レトリックの違いというより、対象を見据える視点からのまなざしは、時間的にも、空間的にも広い範囲を照射していること、また人類にとっての意味に言及しているところが、ポイントである。

現存する富岡製糸場は、建物の保存状態は、130年も前のものとは思えないほど、良好である。しかし、ここで述べたような歴史的、社会的、国際的な背景や物語を知らないで見れば、単なる古ぼけた赤煉瓦の工場であり、わざわざ見に行くまでの価値がないと判断されるかもしれない。片や世界遺産の価値があると判断されているのであり、その振幅は極めて大きい。そして、その振幅の大きさを作っているのは、富岡製糸場を見る”まなざし”なのである。

(3)土木遺産の価値を見直す

さて、土木遺産である。土木遺産は、大きく産業遺産の分類の一つであると位置づけられることが多いが、近代化産業遺産としての工場や鉱山などに較べて活用が進んでいないとされている。それは、上述したことと関係が大いにあるのではないだろうか。

すなわち、どのような見方から土木遺産を見るかによって、その価値は大きく変わるのである。活用という意味を土木関係者以外の一般の人々にも興味を呼び起こし、感動を与える「観光資源」のレベルに持ち上げるには、単なる土木技術的な関心を超えた普遍性のあるストーリー、まなざしを持つて見ることが不可欠である。

歴史を学び、研究することの意味は様々であるが、土木史の役割の一つには、土木遺産の普遍的な価値が見える”まなざし”を発見し、提示することにあるのではないか。

以上

で近代化遺産の伝承に尽力されている岡崎直司氏が耳を傾けてくだされ、土木工学的な遺産価値を専門家に聞き合わされ、貴重なものとして積極的に各方面に説いて回って下された。お陰で、愛媛県西条地方事務所や西条市役所、土地改良区などが検討を加えられ、その一部を願いどおり現場に残す運びとなった次第である(写真2)。地元民として心からお礼を申し上げる。

南蛮樋の大石樋

この新田は所謂“0m地帯”であり、周囲の村落から各種の排水が集中する。したがって、これを溜めおく遊水池は壮大なものであり、“水郷”としてまた、藩公指定の漁場“御留川”(おとめかわ)として賑わってきた(写真3)。この湛水を潮汐の干満に合わせて一日2回、海に排出するのが樋門の役目である(引き潮の時に戸を開け、満ち潮の時に閉める)。

竹内氏の新技術導入により、この開閉に「轆轤(ろくろ)仕掛けの巻き上げ装置」(昔“南蛮”と呼んでいた)を使ったことから、この樋門を南蛮樋といい、地元の名称難波(なんば)もこれによる。



図3 榎瑞難波地区の南蛮樋

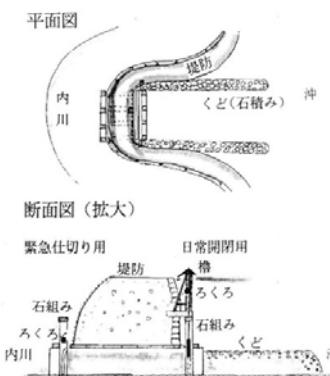


図4 大石樋(3戸前)昔の構造



写真3 難波地区の遊水池(水郷)

かつては5カ所に樋門があったが(図3)、大石樋以外は全て取り壊され、近代的設備に変わって行った。辛うじてこの樋門のみ、開閉こそ自動式になったものの、本体や内川側に昔日の面影を残して、今なおその役割を果たしている。

堤防下をくぐる樋管は3口(3戸前という)あり、1戸前の大きさは約2.2m角、天井・側壁には切石(花崗岩)を積み、底面には大きな栗石で敷きつめて堅牢な箱型を作り、通水させている(図4、5、6、写真4)。

おわりに

掛樋、南蛮樋ともに、230年前の干拓当初から造られていたことは、古地図などから見て間違いはない。無くて済むものではないからである。しかし、現在のものが、必ずしも当初に造られたものとは断定しがたい。とりあえず木造で間に合わせ、その後の過程で補修を加えながら、最後に今日のような頑強な石造物に変わって行ったと見るのが妥当であろう。それにしても、それは近い過去ではない。やはり、江戸後期頃の構造物であろう。これがなお現代に残っていたのは、素晴らしいことであり、文化財的価値を持つと信じている。

(連絡先: 西条市榎瑞 288 TEL 0897-56-4830, mail aioi90@circus.ocn.ne.jp)

関連図書 自著『ふるさと榎瑞～干拓230年祭によせて～』

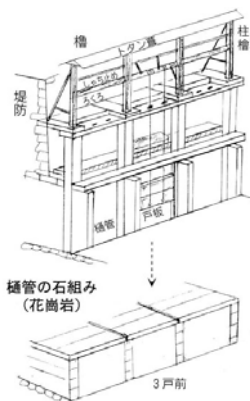


図5 南蛮樋(大石樋)見取図

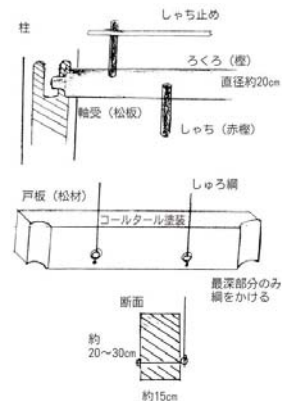


図6 巻き揚げ関係



写真4 南蛮樋の大石樋 内川側の石組み

土木史ニュース

平成 20 年度選奨土木遺産

選奨土木遺産選考委員会幹事 伊納 浩

今年度の土木学会選奨土木遺産は、土木学会選奨土木遺産選考委員会（委員長：伊東孝・日大教授）によって別表のように 23 件が選定された。

その中で、京都府福知山市にある両橋は、村有林を売却して建設費を捻出した経緯があり、今で

も市民に親しまれている構造物である。

そのため、“橋を後世に引き継いでいきたい”との地域の思いから地元からの公募制度によって選奨土木遺産となった。

NO	対象構造物	授賞理由	支部	所在地	竣工年
1	奥沢水源地水道施設 (おくさわすいげんち すいどうしせつ)	北海道開発を支えた港湾都市小樽で建設後 90 年を超える現役の水源。寒冷地での工事技術、階段状溢流路の水流が高く評価される	北海道	北海道/ 小樽市	大正 3 年
2	定山溪発電所施設 (じょうざんけいはつでんしよしせつ)	北海道における現役最古の水力発電所施設。運用開始以降、地域産業の発展に貢献した歴史的構造物。	北海道	北海道/ 札幌市	明治 42 年
3	聖台ダム (せいだいだむ)	建設時国内で最大規模の水田灌漑貯水池。各種の試験や十分なグラウトを施すことで困難な工事を完成させ、修景にも配慮された施設	北海道	北海道/ 上川郡美瑛町	昭和12年
4	最上川橋梁：JR左沢線、 最上川橋梁（通称「荒砥鉄道橋」） ：フラワー長井線 (もがみがわきようりょう)： JRあてらざわせん、 もがみがわきようりょう(つうしょう「あらとて つどうきょう」)：ふらわーながいせん)	最上川橋梁（JR左沢線・フラワー長井線）は、明治時代の全鍊鉄製ダブルワーレントラス橋で国内最古の現役鉄道橋であり歴史的に貴重な土木遺産	東北	JR左沢線： 山形県/ 寒河江市・中山町 フラワー長井線： 山形県/ 白鷹町	JR左沢線：大正10年 フラワー長井線：大正12年
5	直江兼統治水利水施設群 (なおえかねつづちすいりすいしせつぐん)	直江兼統治水利水施設群は、近世初期の城下町米沢を形成する骨格となり、時代を超えて生活や歴史文化を支えている貴重な地域資産	東北	山形県/ 米沢市	谷地河原堤防(直江石堤)： 慶長 6 年 蛇堤(蛇土手)：慶長年間 御入水堰：慶長年間 猿尾堰：年不詳 堀立川：慶長14年 巴堰：堀立川完成以降 室沢堰：年不詳 帯刀堰：慶長18年
6	日川の堰堤と水制群 (ひかわのえんていとすいせいぐん)	扇状地河川の治水によって勝沼のぶどう生産が発展する基盤をつくったものであり、山梨県の歴史を語る上で重要	関東	山梨県/ 甲州市	勝沼堰堤：大正6年 日川水制群：大正4年
7	小倉橋 (おぐらばし)	当時としては画期的な 4 径間アーチが連なる連続感、橋の側面が描き出す力学的な造形美と、周辺の溪谷美との調和が美しい。	関東	神奈川県/ 相模原市	昭和13年
8	荒川横堤 (あらかわよこてい)	荒川の横堤は高水調節を行うため、河道内に本堤から横方向に築いた堤防で、荒川独特の施設である。	関東	埼玉県/ 戸田市・さいたま市地内	昭和9年
9	黒川発電所膳棚水路橋 (くろかわはつでんしよ ぜんだなすいろうきょう)	大正期のRCラーメンで希少性に富み、かつX字型に筋交いの入った3本橋脚は技術・意匠に優れ、独創的な造形美を呈している。	関東	栃木県/ 那須町	大正10年
10	銀座線 浅草駅～新橋駅間 (ぎんざせん ぎんざせん あさくさえき～しんばしえきかん)	昭和2年の部分開通から、7年をかけて新橋駅まで開通した。東洋で最初営業を開始した地下鉄道であり、土木的に重要。	関東	東京都/ 台東区～港区	浅草～上野(2.2km)：昭和2年 上野～万世橋(仮)間(1.7km)：昭和5年 万世橋(仮)～神田(0.5km)：昭和6年、万世橋(仮)駅廃止 神田～三越前(0.7km)：昭和7年 三越前～京橋(1.3km)：昭和7年 京橋～銀座(0.7km)：昭和9年 銀座～新橋(0.9km)：昭和9年
11	曽我浦片隧道(4号、5号) (そがうらかたずいどう(4ごう、5ごう))	国道135号に造られた片隧道であり、坑口が古典的なアールデコ様式で装飾された珍しい意匠の洞門である。	中部	静岡県/ 熱海市	昭和14年
12	百々貯木場 (どうどちよぼくじょう)	開設当初の原形をほぼ遺している点においても希少な事例であり、河川中流域に完全な形で残る貯木場としては全国唯一である。	中部	愛知県/ 豊田市	大正7年
13	(廃) 片平橋 ((はい) かたひらばし)	奈良井川を渡河しているRC開腹アーチ(リブ+柱)橋であり、現在は廃道になっているが、橋体が非常に美しいアーチ形状である。	中部	長野県/ 塩尻市	昭和10年
14	心斎橋駅舎他、御堂筋線の地下駅群 (しんさいばしえきしやほか、みどうすじせんのかえきぐん)	半楕円アーチ型の構造により高い天井と柱のないプラットホームが可能となって広大な空間をつくり出し、照明器具や壁の色彩の工夫も加わって、開放的な地下空間として市民に親しまれている。	関西	大阪府/ 大阪市中央区	昭和8年

NO	対象構造物	授賞理由	支部	所在地	竣工年
15	上田池堰堤 (こうだいけえんてい)	農業土木技術者による初めての粗石モルタル工法による堰堤であり、切石布積が美しい。地域の用水確保に重要な役割を果たしてきている。	西	兵庫県/ 南あわじ市	昭和7年
16	七条大橋 (しちじょうおおはし)	黎明期のRCアーチの中で群を抜いて巨大であり、鴨川筋において明治期の意匠を残す唯一の橋として貴重な施設である。	関西	京都府/ 京都市東山区・下京区	大正2年
17	両橋 (りょうはし)	支間の大アーチが印象的で、拱腔部の小さな連続アーチ、そして高欄にもアーチが組み合わされた姿が意匠に優れた、山陰街道の名橋である。	関西	京都府/ 福知山市	昭和13年
18	今福線のコンクリートアーチ橋群 (いまふくせんのかんくりーとあーちきょうぐん)	未完成に終わった鉄道のコンクリートアーチ橋が一群として現存し、山間の景観に溶け込みながら、悲運な歴史を伝えている。	中国	島根県/ 浜田市	昭和12年着工 昭和15 年中止
19	三石の煉瓦拱渠群 (みついのれんがこうきょぐん)	技術的にも意匠的にもすばらしい煉瓦拱渠が、連続して現存し、山陽本線という幹線でありながら原形を保ったまま使用されている。	中国	岡山県/ 備前市	明治23～24 年 (下り線)、 明治44 年 (上り線)
20	旭浄水場の一連の歴史的施設群 (あさひじょうすいじょうのいちれんのれきしてきしせつぐん)	ルネッサンス様式のレンガ造りの送水所や事務所棟、計量所などが集約した形で残されている、全国的にも貴重な水道施設群	四国	高知県/ 高知市	大正14年
21	若津港導流堤 (筑後川デ・レーケ堤) (わかつこうどうりゅうてい (ちくごがわで・れーけてい))	有明海のガタ土堆積を防ぎ航路確保を行うために作られ、完成から100年以上経った現在もその役割を果たしている壮大な石導流	西部	福岡県/ 大川市・柳川市 佐賀県/ 佐賀市	明治23年
22	有明海旧干拓施設 (ありあけかいきゅうかんとくしせつ)	有明海旧干拓施設 (末広・明丑・明豊・大豊開旧堤防) は、明治時代の潮受堤防 (約5km) と樋門が現存し、干拓の歴史的経緯を示す貴重な遺産	西部	熊本県/ 玉名市大浜町 玉名市横島町	末広：明治28年 明丑：明治26年 明豊：明治28年 大豊：明治28年
23	大島海峡 (旧) 軍事施設群 (おおしまかいきょう (きゅう) ぐんじしせつぐん)	弾薬庫、震洋艇格納壕、戦闘指揮所などが大島海峡沿いに点在している。手安にある弾薬庫は規模や構造の特異さに目を張る。	西部	鹿児島県/ 大島郡瀬戸内町	昭和16年

文化財ニュース

文化財となった土木関連建造物等一覧

【重要文化財】(平成 20 年 10 月答申分)

所在地		名称	建設年代	特徴等
茨城県	高萩市・北茨城市	石岡第一発電所施設	明治 44 年/大正期増設	近代日本有数の銅山として知られる日立鉱山を代表する施設の一つとして産業技術史上、高い価値があり、また施設全般にわたって RC 技術を用いた我が国最初の発電所施設である。とりわけ本館は我が国に現存する最古級の RC 建築物として貴重。
		旧揖斐川橋梁	明治 19 年	
岐阜県	大垣市・安八町	旧揖斐川橋梁	明治 19 年	我が国で最初に完成した幹線鉄道である東海道線において、最も高度な技術を駆使して建設された大規模橋梁の一つであり、かつ唯一原位置に残る遺構として貴重である。また我が国の近代最初期に導入されたイギリス鉄道技術の特色を顕著に表すばかりでなく、明治期に全国で建設された大規模鉄道橋梁の一つの規範を示すものとして、鉄道技術史上、価値が高い。
大阪府	大阪市	大江橋及び淀屋橋	昭和 10 年	御堂筋が中之島と交差する交通と景観の要所に建設された、大阪市第一次都市計画事業を代表する橋梁の一つ。また、立地の重要性に鑑みて周辺景観との調和を意図して実施された橋梁意匠設計図案競技と、地下鉄と一体的に建設された特殊な構造をもつ基礎部分は、近代における貴重な実例であり、橋梁デザイン史及び技術史上の意義も認められる。

【登録有形文化財】(平成 20 年 6 月答申分)

所在地		名称	建設年代	特徴等
福島県	福島市	荒川第四床固工	昭和 29 年	阿武隈川水系荒川及びその支流に建設された砂防施設。いずれも国または県を事業主体として戦後に建設された、重力式コンクリート造で、表面は石積とする。荒川第四床固工は、貯砂機能はもたず、河床安定や河床勾配の緩和等に寄与する。塩の川第一及び第四堰堤、東鴉川第一、第三及び第四堰堤は、精緻なつくりで、川筋の歴史的景観に寄与している。
		塩の川第四堰堤	昭和 31 年	
		塩の川第一堰堤	昭和 29 年	
		東鴉川第一堰堤	昭和 23 年 /昭和 26 年増築	
		東鴉川第三堰堤	昭和 26 年 /昭和 29 年増築	
		東鴉川第四堰堤	昭和 32 年	
群馬県	みどり市	わたらせ渓谷鐵道上神梅駅本屋及びプラットホーム	大正元年 /昭和初期増築	足尾と桐生を結ぶ旧足尾鉄道の駅舎。南半を事務室、北半を待合室とした、標準的な平面の木造駅舎で、往時の姿を今によく伝える。
滋賀県	甲賀市	信楽高原鐵道第一大戸川橋梁	昭和 29 年	我が国で最初に築かれた本格的プレストレストコンクリート造橋梁。
鳥取県	八頭郡若桜町	若桜鉄道若桜駅本屋及びプラットホーム	昭和 5 年 /平成 7 年改修	木材の輸送等を目的として昭和 5 年に全線開通した旧若桜線の関連施設。終着駅である若桜駅には、木造平屋建の本屋及び石積のプラットホームの他、手動による信号制御が行われていた物置及び灯室、転轍機を操作する係員の番所として使われた東西の旧転轍手箱番所、保線の車両等を収める諸車庫、機関車転向に用いる直径 15m の機関車転
		若桜鉄道若桜駅物置及び灯室	昭和 5 年	
		若桜鉄道若桜駅旧西転轍手箱番所	昭和 5 年	

鳥取県	八頭郡 八頭町	若桜鉄道若桜駅旧東転轍手箱番所	昭和 26 年	車台、蒸気機関車への給水が行われた給水塔、駅構内で除雪された雪を流すための導水路である流雪溝といった一連の構造物が現存し、昭和初期における終着駅の構成を今によく伝える。
		若桜鉄道若桜駅諸車庫	昭和 5 年	
		若桜鉄道若桜駅機関車転車台	昭和 5 年	
		若桜鉄道若桜駅給水塔	昭和 5 年	
		若桜鉄道若桜駅流雪溝	昭和 16 年	
		若桜鉄道若桜川橋梁	大正期頃/昭和 5 改造移築	若桜駅の西方には、丹比駅や八東駅、安部駅、隼駅、因幡船岡駅の駅舎が現存する。駅舎本屋は、いずれも木造平屋建、梁間約 4.5m 規模の切妻造で、主に事務室と待合室よりなり、外装は下見板張等とする。いずれも本屋と連続的に、または独立で、石積のプラットホームを併設し、独立型の八東駅及び安部駅のプラットホーム上には、ガラスを多用した開放的なつくりの待合所を設ける。
		若桜鉄道雪覆	昭和 23	
		若桜鉄道落石覆	昭和 30	
		若桜鉄道第三八東川橋梁	昭和 5	
		若桜鉄道細見川橋梁	明治中期/昭和 5 年改造移築	
		若桜鉄道丹比駅本屋及びプラットホーム	昭和 5 年	橋梁は、いずれもプレートガーダーで、転用桁を改造して用いた若桜川橋梁、細見川橋梁、岩淵川橋梁と、新規に建設された第一、第二、第三八東川橋梁よりなる。転用桁の内、細見川橋梁にはお雇い英国人技師ポーナルの設計による我が国初の標準設計桁である「作練式」、岩淵川橋梁には関西本線を敷設した大阪鉄道の製作による「大阪鉄道式」の特徴的な桁を用いる。第一、第二、第三八東川橋梁はいずれも橋長 100m を超える長大な鋼製構造物。
		若桜鉄道第二八東川橋梁	昭和 5 年	
		若桜鉄道岩淵川橋梁	明治中期/昭和 5 年改造移築	
		若桜鉄道八東駅本屋	昭和 5 年	
		若桜鉄道八東駅プラットホーム	昭和 5 年	
		若桜鉄道安部駅本屋	昭和 7 年	この他、山からの落雪が線路へ転落するのを防ぐラーメン構造の雪覆とアーチ構造を用いた重厚なつくりの落石覆も併せて登録する。
		若桜鉄道安部駅プラットホーム	昭和 7 年	
		若桜鉄道隼駅本屋及びプラットホーム	昭和 4 年	
		若桜鉄道因幡船岡駅本屋及びプラットホーム	昭和 4 年	
		若桜鉄道第一八東川橋梁	昭和 4 年	
福岡県	久留米市	旧三井寺ポンプ所及び変電所	昭和 8 年	煉瓦造の旧農業用水施設で半円アーチ窓が外観のアクセント。

【登録有形文化財】(平成 20 年 9 月答申分)

所在地	名称	建設年代	特徴等
滋賀県 東近江市 ～愛知郡 愛荘町	近江鉄道愛知川橋梁	明治 31 年	9 連プレートガーダーと単ポニーワーレントラスよりなる、明治後期の現役鉄道橋。
岡山県 津山市	JR 因美線美作滝尾駅駅舎	昭和 3 年	昭和初期の標準的な小規模駅舎で、待合室と事務室等で構成される。

学会の動き

第28回土木史研究発表会報告

去る7月5日（土）・6日（日）の両日、九州大学・西新プラザにおいて、第28回土木史研究発表会が開催された。発表会は2つのフロア、テーマごとの12セッションで計47編の発表があり、二日間の参加者は約140人となった。

また、九州での発表ということもあり、佐賀県を流れる嘉瀬川関係に関する論文も多く大変興味あるものであった。特に、水供給システムに関する発表

(株) 地域開発研究所 伊納 浩は、江戸時代からの絶え間ない努力と高度な土木技術がデルタ地帯での水供給システムを支えてきたことに驚かされた。

土木史フォーラム小委員会からは、平成7年から発行してきた機関紙の配布があり、過去にどのようなことが話題となっていたかを知ることができた。なお、このバックナンバーは小委員会のホームページで見ることができるようになっている。

土木学会全国大会 研究討論会報告 ～これからの土木史研究に向けて～

去る平成20年9月11日、土木学会全国大会（於東北大学）において、土木史研究委員会の企画による研究討論会「これからの土木史研究に向けて」が開催された。討論会では、天野光一教授（日本大学）を座長として、五十畑弘教授（日本大学）、知野泰明准教授（日本大学）、伊納浩氏（(株) 地域開発研究所）、松川清子氏（野蒜築港ファンク

パシフィックコンサルタンツ（株）阿部 貴弘（ラブ）を話題提供者に迎え、様々な視点から土木史研究に関わる話題をご提供いただいた。その後、約70名に上る会場の参加者を交えて、これからの土木史研究に向けた活発な議論が展開された。主な議論は、①土木遺産の保全・活用における課題、②今後の土木史研究に対して、③土木遺産のまちづくりへの活用に向けて等であった。

「第 29 回土木史研究発表会」の開催と講演用論文および討議欄の募集

土木史研究委員会

土木史研究委員会（委員長：篠原修・政策研究大学院大学教授）では、第 29 回土木史研究発表会の開催（2009 年 7 月、北海道教育大学函館校）にあたり、講演用論文を募集いたします。皆様のご投稿をお待ち申し上げます。なお、発表用論文の提出方法が、版下原稿郵送から電子投稿に変更となり、従来の講演申込が無くなり、発表論文原稿の投稿が申込みも兼ねることになります。また、投稿の締め切りは 4 月上旬を予定します。

電子投稿の方法の詳細などは土木史研究委員会ホームページ <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm> にてご案内申し上げます。

1. 主 催：土木学会（担当：土木史研究委員会）
2. 期 日：2009 年 7 月 4 日（土）～5 日（日）
3. 会 場：北海道教育大学函館校（函館市八幡町）
4. 発表用論文、討議の申し込み、投稿方法：電子投稿（詳細土木史研究委員会 HP 参照）
5. 問合せ先：土木学会土木史研究編集小委員会（担当職員：橋本剛志）
（〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内、
Tel. 03-3355-3559 / FAX. 03-5379-0125、E-Mail：hashimoto@jsce.or.jp）

平成 20 年度 土木史研究委員会及び土木史フォーラム小委員会名簿

土木史研究委員会・同 土木史フォーラム小委員会

【土木史研究委員会】

委員長 篠原 修（政策研究大学院大学）
副委員長 五十畑 弘（日本大学）
副委員長 小林 一郎（熊本大学）
幹事長 天野 光一（日本大学）
委 員 岩屋 隆夫（東京都土木技術センター）、川崎 秀明（国土交通省国土技術政策総合研究所）、
藤井 三樹夫（土木史研究室）
幹 事 阿部 貴弘（パシフィックコンサルタンツ（株））、北河 大次郎（文化庁）、
鈴木 圭（（財）日本建設情報総合センター）、知野 泰明（日本大学）、土田 宏成（神田外語大学）

【土木史フォーラム小委員会】

小委員長 藤井 三樹夫（土木史研究室）
幹事長 鈴木 圭（（財）日本建設情報総合センター）
事務局 伊納 浩（（株）地域開発研究所）
常任委員 阿部 貴弘（パシフィックコンサルタンツ（株））、神田 恭太郎（J F E エンジニアリング（株））、
田中 尚人（熊本大学）、永村 景子（（株）文化財保存計画協会）、原口征人（（社）北海道開発技術センター）、
榊山清人（（財）全国建設研修センター）、横松宗治（APECLAND (HONGKONG)）

編集後記

安島先生の論説を拝読し、前から抱いていた夢を実現したいと考えています。土木遺産の普遍的な価値が見える“まなざし”を是非、多くの読者の皆様にご提供頂き、地域毎に A4 1 枚程度でガイドパンフを日本文・英文併記で作成したらいかがでしょうか。海外のお客様にも喜んでもらえるような、小さな“おもてなし”を土木史フォーラムから世界に提供してみませんか（鈴木圭）

土木史フォーラム No. 36

監 修：土木学会土木史研究委員会
発 行：土木史フォーラム小委員会
代表者 藤井 三樹夫 土木史研究室
事務局：伊納 浩（（株）地域開発研究所）
TEL.03-3831-2844 FAX.03-3831-2620
Email：inou@rdco.co.jp
<http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/forum/>
印 刷：懶青孔社

CONTENTS

-FORUM

The role of the historical studies in civil engineering to think about from the value of the industrial heritage. YASUJIMA Hiroyuki 1

-LOCAL NEWS

・ The heritage of reclamation in modern times — Kakehi and Nanbanhi MIKI Akio 3

-NEWS

・ 2008 Admiration of Civil Engineering heritages by JSCE (JSCD) 5

-Civil Engineering Works on Latest Heritage Registration List

KITAGAWA Daijiro
and ABE Takahiro 6

-REPORT FROM CHSCE(Committee on Historical Studies in Civil Engineering)

・ Report on the 28th Annual Meeting of CHSCE INOU Hiroshi 7
・ Workshop in annual meeting JSCE ABE Takahiro 7
・ Call for papers of the 29th Annual Meeting of CHSCE (CHSCE) 8
・ Committee members list 2008